

広報委員会  
(第24期 第3回)  
議事要旨

1. 日時 平成30年6月29日(金) 10:00~12:00
2. 場所 日本学術会議 6階 6-A(1) 会議室
3. 出席者 渡辺委員長、町村副委員長、多久和幹事、大倉幹事、伊藤委員、荒川委員、所委員、松宮委員、隠岐委員、嶋田委員、山川委員(ビデオ) 三成委員、渡辺(芳)委員
4. 配布資料
  - 資料1 広報委員会 委員名簿
  - 資料2 広報委員会(第2回) 議事要旨【確定版】
  - 資料3 「SDGsから見た学術会議 — 社会と学術の関係を構築する—」
  - 資料4 国際発信推進分科会(第2回) 議事要旨
  - 資料5 学術会議HP 充実に向けての進捗状況
5. 議事
  - (1) 提言等の英訳について
    - ① 「SDGsから見た学術会議 -社会と学術の関係を構築する-」の英訳について
      - ・ 渡辺委員長より、資料3「SDGsから見た学術会議 — 社会と学術の関係を構築する—」の英訳について、提案があった。
      - ・ 英訳については、科学と社会委員会で行い、提言の作成者である委員会・分科会委員長にチェックをお願いすることとした。
    - ② 今後の提言の英訳について
      - ・ 隠岐委員(国際発信推進分科会委員長)より、分科会からの提案として、「現状は一部の提言等しか英訳されていないため、今後発出される提言等については、タイトルの英訳を必須とし、可能な限り100words程度の英語概要をつけて、英語版ホームページで発信してはどうか」との提案があり、了承された。
      - ・ 三成委員(ホームページ編集分科会委員長)からも、提言のタイトル・概要についてはぜひ今後お願いしたいとの意見があった。
      - ・ 委員から英語版ホームページへのアクセス数について質問があり、事務局が確認の上後日連絡することとした。
  - (2) ホームページの変更について
    - ① 現在の改善に向けての進捗状況について
      - ・ 三成委員から、資料5「学術会議HP 充実に向けての進捗状況」を元に、ホームページ編集分科会での現在の審議状況等について説明が行われた。スマホ対応を含む大規模なリニューアルは、今年度予算では難しいため、来年度の予算で行え

るよう要求を行うが、今年度は現行のホームページの中で改善できる箇所について、プチリニューアルを行っていく旨の説明があり、意見交換が行われた。

- ・委員からの「トップページ左側のバナーの項目はどのように選ぶのか」の質問に対しては、「特定の分野ではなく、機能別委員会で扱っているテーマ等学術会議全体に関わるものがないのではないかと考えている」と回答があった。

- ・これに対し、委員からは、バナーの項目の順番や「東日本大震災」の扱いについても意見があり、今後ホームページ編集分科会で検討することとされた。

- ・来年度のリニューアルについては、次回の広報委員会で議論することとなった。

## ②英語版ホームページについて

- ・英語版ホームページも合わせてリニューアルを行うが、見せ方や構成については基本的に国際発信推進分科会が中心となり議論を進めることになった。

- ・今後は、ホームページ編集分科会、国際発信推進分科会が適宜合同分科会を開催し、協力しながら進めることで合意した。

## (3) 学術の動向の編集改革について

- ・伊藤委員（「学術の動向」編集分科会委員長）より、「学術の動向」の現在の状況として、「学協会の特集が始まるなど変わりつつあるが、根本的なところはまだ変わっていない。財団の編集企画経営委員会が今月から立ち上がり、企画・編集の内容面、どうやって購読者を増やすかという財政面、読者層の開拓について、若手や編集者にも入ってもらい、議論を行っていくことになっている」との説明があり、意見交換が行われた。

（委員からの主な意見は以下の通り）

- ・読者層拡大のターゲットとして高校生があげられているが、大学幹部など特定の層のニーズがあるので、急に子ども向けに転換することで、現在の読者層に影響があるのではないか。

- ・シンポジウムの特集が多いが、提言の特集をもっと企画してはどうか。

- ・若者に読んでもらうために、「特集紹介」の解説などが、読むトリガーになることがあると思う。編集後記の内容、掲載場所を工夫するなどの方法も考えられる。

- ・「学術の動向」というタイトルがとっつきにくいかもしれない。メインタイトルを変えてはどうか。

- ・表紙をキャッチーにして手に取ってもらえるような工夫が必要ではないか。

- ・高校の図書館の団体、教育委員会等に購読をお願いしてはどうか。

- ・サイエンスカフェは若者も含む一般の参加者が多いので、そういった場でPRしてはどうか。

- ・新聞社の論説委員などに送って見てもらえれば、紙面で紹介してもらえるのではないか。

- ・J-stageのアクセスランキングなどを分析し、どういう記事が読まれているかを調査した結果を今後の企画に活かしてはどうか。